



THE ROTARY CLUB OF HIROSHIMA-RYOHOKU

広島陵北ロータリークラブ

- The Weekly Report -



～ クラブのテーマ ～

こころゆたかなロータリアン

～ 本年度会長方針 ～

活力漲る楽しいロータリー

世界へのプレゼントになろう

2015-2016 R.I.会長メッセージ

第1187回例会 2015年11月18日 No.1156号

■ 会長時間



会長 川中 敬三

第3例会唱和 ロータリーの理念(超我の奉仕)

『* 人は自分1人では生きて行ける存在ではない。お互いに支え合い、助け合ってこそ生きて行けるのである。』『* 人と人の支え合いは、思いやり、分かち合い、関わり合いである。相手の身になって、思いやりの心を持って関わり合うことが「ロータリーの奉仕」の根本理念である。』『* 「奉仕第一・自己第二」奉仕の中にこそ、幸福は存在する。奉仕の苦勞は、これを受け、まあこれに打ち勝つことにより人生を高めるものである。』『* ロータリーの奉仕とは、人と社会との関わり合いの基本として「超我の奉仕」を適応することである。』

11月第3例会を迎えました、本日はロータリー財団について、広島北ロータリークラブから石田平二バスト会長と岡部知之会員に来ていただき、色々と財団活用についてご示唆賜ります。最近ロータリーについて色々見聞きする機会が増えてきて特に思うことは、ロータリー財団なくしてロータリーを語るべからず、という気持ちです。ロータリーの奉仕活動には5つの奉仕活動があります。これらの中の奉仕活動にロータリー財団の地区補助金やグローバル補助金を活用しようということです。会員が一同になって取り組む奉仕活動こそ、私の唱える、「活力漲る楽しいロータリー」になると確信いたしております。

話は少し飛びますが、先般二宮金次郎について書物を読み感動したので紹介します。以前講演で聞いたことがあり、水車の哲学で生涯600余村の復興に尽力した努力の人と言う事ぐらひは知っていました。また小学校の校門へ二宮金次郎の薪を背負い、本を読んでいる銅像があったのも覚えてます。

さてここで今回感動したことは、川の氾濫について治水するに、堤防をつくるのは当たり前ですが、一部を附かず引き込み、ため池をつくって利用したとか、村人の気持ちを一心にするため老若男女、子供、病人などを求心する哲学を説いたとかありますが、晩年に好んで作った道歌の一つですので紹介します。

それは、「春の野に芽立つ草木をよく見れば、さりぬる秋に実る種々」と言う道歌です。

非常に思慮深く、謙虚、遠慮の人生を歩んでこられた人物の名句でしょう。これはロータリー精神にも似たところがあるような気がします。単に「秋に植え付けた種は春に芽を出す」という当然の因果を示しているだけでなく、努力は成果に結びつくということの尊く、大切さを伝えたいという思いが込められていると言う事です。これらから我々もロータリーを学び日々、奉仕の実践に一步一步努めてまいることが大切ですよと言う事でしょう。これを申し述べ、今日はこれで会長スピーチに代えます。

今回の例会(11月25日)

来賓卓話

ストレングスジム 代表

重岡 寿典 様

次回の例会(12月2日)

年次総会

出席報告 (例会運営委員会)

11月18日(水)出席者

会員総数	53名
出席会員	39名
欠席会員	14名
ご来賓	0名
ご来客	5名
ゲスト	2名

来賓者紹介 (親睦家族委員会)

11月18日(水)出席者

広島RC	1名
広島南RC	1名
広島北RC	3名

【例会】 毎週水曜日(12:30~13:30) / リーガロイヤルホテル広島(広島市中区基町6-78) / 082-502-1121

【会長】川中 敬三

【事務所】広島市中区基町6-78 リーガロイヤルホテル広島13F

【TEL】082-221-4894

【幹事】高野 憲一郎

【ホームページ】<http://www.ryohoku-rc.jp/>

【FAX】082-221-4870

幹事報告
(高野憲一郎)

■例会変更

- ・ 広島北RC「夜間例会」
【と き】 11月26日(木) 18:00～ 【※同日変更】
【ところ】 ホテルグランヴィア広島

■お知らせ

- ・ 11月の定例理事役員会において、広島シンガポール協会日本語学研修奨学金10万円(2ヶ月分)を負担することを承認致しました。奨学金の贈呈式を12月9日(水)の例会にて行いますので、お知らせをいたします。
- ・ 本日発行の週報を受付に置いていますので、必要な方はお持ち帰りください。

- ・ 次回の例会はストレングスジム 代表 重岡 寿典様の卓話となります。
- ・ 本日、18時30分より心酔本店にて「第1回近年入会者セミナー」を開催します。出席のご回答を頂いている方はご出席ください。



.....:SMILE BOX

広島北ロータリークラブ 石田様、岡部様

本日は、「補助金に対する考え方」についての卓話をさせて頂きます。

広島北ロータリークラブ 上河内様、小林様、佐々木様

メイクアップをかねて、石田会員・岡部会員の卓話を聞きに来させて頂きました。

川中敬三 会員、武田龍雄 会員、高野憲一郎 会員

本日は、広島北RCの石田様・岡部様に「補助金についての考え方」の卓話を頂きます。宜しくお願い致します。

武田龍雄 会員

昨日、県内4信用金庫合同のビジネスフェアが開催され、1万1千人を超える方に来場いただきました。出展いただきました小川会員・川端会員ニコニコにもお付き合い願います。

久保井邦宏 会員

本日、紙屋町シャレオ中央広場において、広島県建築士事務所協会主催の建築事務所とつくるこだわりの住まい展が夜8時まで開催されています。是非、お立ち寄り頂ければ幸いです。

当日計	17,000円	累計	360,000円
-----	---------	----	----------

ゲスト卓話

広島北ロータリークラブの補助金に対する考え方

広島北ロータリークラブ
石田 平二 様(写真左)
岡部 知之 様(写真右)

みなさまこんにちは。先ほどご紹介いただきました広島北ロータリークラブの岡部知之でございます。先輩諸氏の前で甚だ僭越ではございますが、北RCの補助金に対する考え方というタイトルでお話させていただきます。よろしくお願いいたします。



まず自己紹介から。来月でロータリー入会7年になります。2年目からいろいろ役をやらせていただき、未熟ながら次年度幹事という大役を拝命しております。また、野球同好会の方では、陵北の皆様とも顔を合わせる機会が多くありますが、お陰様で現在は内野のレギュラーを獲得しております。特技は山坂監督への付け届けでございます。現在51歳、いろいろあって独身でございます。みなさま可愛がってやってください。

まず広島北RCの今年度財団プログラム委員会の活動について説明いたします。ここにありますように、大きく3つの計画を立てております。

1つ目のガバナー地区目標について、4点掲げております。

2つ目は新会員でも正しく財団を知るための卓話を自前でやろうということで、実は先週ここにいます佐々木財団プログラム委員長が、「なるほどザENDPOLIONOW」というタイトルで、できるだけわかりやすく説明してくれました。財団月間の財団委員会卓話はついつい地区財団委員会やパストガバナーに依頼しがちですが、自分たちでやるといっても財団について勉強する機会となりますから、敢えて自前にこだわっています。お蔭で、恐らくどんな地区財団委員会の方よりも佐々木委員長の方がENDPOLIONOWについてすらすらと話せると思います。

3つ目はロータリー財団が取り組んでいるプログラムをもっと伝えようという活動です。財団って常にぺこぺこしながら寄付を集めるだけの委員会に終始しがちです。今年度当クラブ山下会長の「楽しみながら実践しよう」という会長方針から、地味な財団委員会をいかに楽しい委員会にするかという難題を突き付けられました。今までやったことの無いことに全員が参加できるようなことを考えようということになりました。

ガバナー地区目標の中に、ポリオプラス基金一人当たり35ドルとありましたが、ここ数年は目標1人当たり15ドルでした。当クラブは15ドルを前期と後期に分けて徴収していましたが、この差額20ドルをどうすべきか。2回に分けて徴収するのも芸が無いので、ここにありますとおり2つのことで足りない分を集めようということになりました。1つ目の百万ドルの食事は財団月間の11月と2月に実施します。2つ目が先ほど申しました広報活動の実施と同時に、ポリオ基金の寄付を集めることをセットでやろうという企画に行きつきました。ENDPOLIONOWのTシャツを着てキャップをかぶり、ひろしま国際平和マラソンに出よう、応援しようというイベントを立案しました。Tシャツとキャップのデザインは会長の肝いりで、難航の末かっこいいモノが出来上がりました。当日の風景をビデオにまとめましたのでまずご覧ください。

当クラブのマラソン参加者は5kmに山下会長含め17名、10kmに私を含め4名の計21名。ご家族ご友人を含めると総勢30名がTシャツとキャップでマラソンに参加し全員完走しました。

ゲスト卓話

前置きが長くなりました。そろそろ本題に入ろうと思います。

まず広島北RCが補助金に対する考え方の根本は、「補助金を使う権利がある」ということです。これは私が財団プログラム委員長の時に、石田会員が言われた言葉です。そもそも奉仕事業を実現するために寄付しているのに、使い道がなく余らせていること自体が無意味であり、クラブの規模に関係なく、内容のある申請されたプロジェクトには補助金が出るというシステムなのだから、みんなに使う権利が均等にあるんだということです。

前年度の2710地区の事例で説明します。

3年前の年次基金(みなさんの年次寄付)40万ドルがもどってきます。合わせて元本は使用されない恒久基金の運用益6万ドルと合わせて46万ドルがこの年度の財団活動資金です。その半分が地区DDFとして、半分は国際財団活動資金WFとして活用されます。

次にDDFの半分11万5千ドルをこの年度は地区補助金として活用できるわけです。しかし前年度地区補助金申請は20クラブ、採用は17クラブでたった3万2千ドルしか活用できていません。残りの8万ドル以上は繰越で、次年度地区補助金以外で使用されます。

次に、残り半分の11万5千ドルと、前年からの繰り越し35万ドル計46万5千ドルのうち、グローバル補助金で8万ドル、ポリオプラス基金へ4万ドル、ロータリー平和フェローへ2万5千ドル使用し、31万ドルを次年度へ繰越。先ほどの地区補助金未使用と合わせて約40万ドルを繰り越していることとなります。

要するに全体としては使い切れていないということなのです。

でもそこにはいろんな事情があると思います。申請の面倒くささだけではないと思います。当クラブも未来の夢計画初年度は補助金事業申請を断念しました。理由は準備が間に合わなかったからです。

初年度の反省を踏まえ、我々が押さえるべき地区補助金に関する指針ポイントは2つあります。

まず、1クラブ1件までしか申請できないということと、3月末までに申請しなければならないということで、12月に理事が決まりその後年を越して委員長決めていたらとてもじゃないけど3月末までに間に合わない。ということで、今年度の社会奉仕委員会で申請するプロジェクトを申請し、副委員長が次年度委員長を務めるという流れに変えています。

後はプロジェクトの内容が地区補助金対象として相応しいかどうか。これは粗い状態で地区財団委員会に投げかけ、これなら大丈夫という感触を得た上で具体的に申請を進めることにしています。

お陰様で今年度は無事承認していただきました。広島大学病院の小児病棟に入院している子どものご家族が少しでも負担なく宿泊できる新施設のファミリーハウスにソファや本棚、絵本、ぬいぐるみなど一緒に過ごすキッズコーナーを寄贈しました。

前年度は地区補助金申請を断念したと先ほど申し上げましたが、昨年8月の広島豪雨土砂災害支援事業として、地区補助金の一部と地区に集まった災害支援活動助成金を活用させていただきました。活動費はこのとおりです。

事業内容は、災害ボランティア支援金寄付、梅林小学校へ遊具を2基寄贈、文教女子大学へピアノ1台寄贈、災害2日後からできる限りタイムリーな支援ということで、ボランティアセンターへ備品の寄贈や設備の貸し出しなどタイムリーな活動をしました。実際我々メンバーが現地に足を運び活動いたしました。支援活動が少し落ち着いてきた時期を見計らい、子どもたちを元気にするスポーツ教室を開催しました。これについてはビデオがありますので少しご覧ください。こんな被害はもう二度とあってほしくないのですが、地域には自然災害だけではなく、様々な支援が必要ことがあります。そういったニーズをつかみ、地区補助金を有益に生かすことが本来あるべき姿ではないかと、この事業を通して感じました。

ゲスト卓話

地区補助金については以上ですが、もう一つの補助金であるグローバル補助金について最後にお話しさせていただきます。

当クラブではここ数年、タイにて小学校に浄水器を設置するという国際奉仕事業を手掛けてきました。現地のロータリークラブとのパイプもでき、日本語でコミュニケーションできる人材が先方にいることから、これまでの事業推進もスムーズに出来ました。今年度何とかグローバル補助金申請にチャレンジしようと試みましたが、残念ながら見送ることにしました。

いろんな理由がありましたが、一番大きな理由は事業規模がグローバル補助金事業のサイズにアンマッチだったということです。仮にそのサイズに合わせると、持続かつ測定することが不可能であるということがわかりました。広範囲に浄水器を何台も設置すると、それに対するメンテナンスや水質の検査等、莫大な時間とランニングコストが必要になるということで見合わせました。

一度手を上げて、地区で承認を受け、オンラインで申請したらもう後には引けないという、とっても安易に申請できないということもわかりました。

しかし、大きな国際奉仕事業をいずれは実現したいという思いがあり、今後グローバル補助金に対しては次の考え方で取り込もうと思っています。

まず何を置いても地域ニーズの調査です。手弁当で現地に毎年行くぐらいの気合で臨まなくてはなりません。好きこそもの上手なれです。

そして、1クラブだけでなく、一緒にチャレンジしようという共同提唱という選択肢もありだと思います。たとえば北と陵北と安佐で申請するってということもありだと思います。実際に2710地区内では、福山東他3クラブ合同での「インドネシアバリ島水プロジェクト」や東広島21と西条の「ポリビア水頭症プロジェクト」など多クラブでの共同提唱という実例があります。まずは情報交換から始めてみてはどうかと思います。

また、地区財団委員会からの情報収集は重要です。しかし、研修会やセミナーだけでは具体的な情報がなかなか得ることができませんので、個別に相談して細かい情報を得ることが大事ではないかと思います。

そして、当クラブは3年後の50周年に向け大きな事業を実現できるように、グローバル補助金申請についての学習と経験を重ねていきたいと思っています。

以上手前味噌な話に終始し失礼いたしました。今後広島陵北RCの補助金申請事業に少しでもお役にたてれば幸いです。

以上でございます。ご清聴ありがとうございました。